

団体名：名古屋水域研究会

## 団体概要

名古屋近傍の水辺や河川治水，利水舟運，流域問題をテーマに活動しています。社会経済の変化により舟運施設や産業遺構はほとんど消失しており，特に高度経済成長期の面影を留める施設は絶滅寸前です。堀川にわずかに残る舟運遺構を活かしたまちづくり・河川整備を期待して活動しています。

## 活動名：舟運遺構の保全・舟遊びによる水辺の活性化

R4活動【舟運遺構の保全，接岸可航調査，関係者調整，舟遊び実施】

### 1 活動の目的



R310舟遊び

○舟運遺構の保全活用

・(株)沖商商店の舟運遺構からの舟遊び、土砂植生の除去で快適な乗下船環境の保全

・名古屋市登録地域歴史的建造物資産（沖正商店とブランカ）への登録支援

・桂川木材工業(株)所有のデリッククレーンの可動調査（中部産業遺産研究会と共催）及び所有者への登録意向の確認

○名古屋周辺水域での可航接岸調査

・桑名七里の渡しから庄内川松蔭公園への着岸乗下船調査，庄内川万場の渡しまでの可航調査，堀川尾頭橋での乗下船体験の実施。

### 2 活動の内容

○名古屋周辺水域での可航調査，堀川最期のデリッククレーン資料収集と可動調査

○地域歴史的建造物資産へ2軒登録，舟運遺構と水辺景観にマッチした佇まいの醸成

○中部産業遺産研究会との共同調査，善福寺川を里川にカエル会の視察対応など新たな団体との連携



R310乗下船状況

### 3 活動の振り返り（目的を達成できたか）



○舟運遺構を有する施設所有者への名古屋市登録地域建造物資産の制度紹介、登録を促して街並みと一体となった舟運遺構・水辺景観の保全に取り組む。

○オープンデッキでの堀川舟遊びを継続して快適性をPRすることで利用者や既存事業者の意識変革，快適な河川利用につなげる。

○愛好家、他の団体との連携や共同の機会を増やして舟運遺構・水辺景観の保全の賛同者を増やしていく。

○河川水域での可航・接岸調査，河状の把握はしつこいくらいがちょうどよく，事業者任せにせず運営団体も自ら実施するなどを他団体にも伝えて安全第一を期していく。



### 4 今後の取り組み

○未経験の市民にも好評だった船旅 桑名～庄内川～堀川舟運遺構の可航調査（約60km）に今回は未経験の方にも乗船して頂いた。参加前はオープンデッキの和船での3時間以上の船旅で不安だったが快適で楽しかった。また機会があったらぜひ参加したく高齢者でも安全に楽しめるとの感想があった。

○舟運遺構の連携による保全活用  
今回は堀川に唯一残るデリッククレーン可動調査を中部産業遺産研究会と合同で実施した。美しい水辺景観，建造物資産や産業遺産の保存は行政分野も異なり愛好者の組織も異なるが催事は一体で行うほうが各々の得意分野が活かされた。

